

白山ふるさと文学賞

第十三回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

中高校生 作文の部 最優秀賞

「自分」と生きる」

松任中学校二年

沖津^{おきつ}

百花^{ももか}

私には生きていく上で大切にしていきたいと思っ

る。まず、自分らしく生きることだ。以前まで私は、自分らしく生きるということは本当に大切なことなのだろうか、少し疑問に思っていた。なぜかという、自分らしく生きるということは、人と関わる上で、必然的に自分の価値観を相手に押し付けてしまうことになると思っ

ていたからだ。そうになると、自分らしく生きるということは、単なるわがままに近いものになってしまう。そして価値観の違いにより、相手との相違が生まれてしまう。人と自分を比べてしまう性格の私は、今までこれらのことを恐れていた。だが、これまでに沢山の事を経験して学び、いろいろな考えと出会ったことで、見方が変わり、相手との相違は、私が私であるもので、自分自身のことを知るためのひとつの方法であるように考えることができた。実際に一番難しいのは、相手のことを知ることよりも、自分自身のことを知ることだと思

った。まず、幸せを感じられる心を持たないと、人は幸せを感じる

ことができない。生きていく中で、人と自分を比べて「私もこうだっ

たらよかったのに。」と人を羨んで、やるせない気持ちになること

も少なからずあるだろう。そんなときは、今置かれた環境でどれだけ

楽しめるかを試されているのだと前向きに考え、そこから幸せを見つ

けに行くことが大切だと思っ

た。そして、自分の人生を豊かにしていくことである。今年は身近な人が亡くなったこともあり、「死」に触れたり、考えたりする機会が増え、「死」は今を生きている私にとっては、一番遠いもので、一番近いものだと感じた。そして、自分の「死生観」というものがより深まった。この経験をを通して人生の満足度は決して人生の長さではなく、どれだけ充実した人生を送れたかだと感じた。また、今年の1月に能登半島地震が発生し、人間が自然に対してどれだけ小さくて無力なものなのかを身に染みて実感し、私たちは自然に生かされているのだと考えさせられた。そして、今普通に過ごせていることが、必ずしも当たり前ではないことに改めて気づかされ、一日一日を大切に過ごしていきたいと思っ

た。「一度きりの人生だから後悔しないように。」とよく言うが、その一度の人生の中ならどれだけ失敗してもい

いし、何度でもやり直すことができる。できたことよりもできなかった

ことに挑戦していきたい。そして、人生のゴールを迎えた時に、「い

ろいろあったけど、いい人生だった。」と思えるようになりたい。

今挙げたことが簡単にできるのかと言われれば、そうではないだろう。自分を変えることはとても大変なことであり、時間がかかることだと思っ

た。だがこれからの日々を、これらのことを大切にして過ごして

いきたい。同じ日々を繰り返しているのではないかと、なかなか理想

通りにはいかない毎日。小学生の頃の私は、もっと輝いている中学

生になっていたと思っ

た。そして今の私も、大人になった

自分に期待をしてしまっている。出会いや別れを繰り返して、人間関係は変わっていくが、「自分」とは一生付き合わないといけない。これから「自分」という存在にぶつかってしまうこともあると思うが、たくさんを経験し、そこからいろいろなことを得て、人と出逢い、少しずつ「自分」を見つけていきたい。努力しても、報われない方が多い毎日。自分への卑屈が絶えず、嫌気が差す毎日。そんな中で、たとえ自分を好きにはなれずとも、自分を愛せっていると胸を張って言える人になりたい。

